論文

口語英語の Phraseology－let's say の多義性

井上亜依（関西学院大学大学院）

1. はじめに

口語英語には多くの成句的表現が見られる。Altenberg (1998:101)は、‘ .....spoken English is very rich in such recurrent strings.’と述べている。しかし、口語英語を対象とした成句表現の研究はあまりなされていない。その理由は、口語英語データをどこから得るかという問題と、先行研究不足の問題などがあげられる。その成句的表現の研究を Phraseology という。後に詳細に説明するが、Phraseology とは成句的表現の研究で、その表現は Phraseological units(hence PU)という。本研究では口語英語の Phraseology 研究の一環として、日本語の「たとえば」にあたる let's say の多様な使われ方を提示する。

Phraseology 研究は一般の理論文法でも行われているが、本研究は、八木(1999, 2004)「意味的統語論」の立場に基づく。「意味的統語論」とは「意味と形式の間には一定の関係があるという立場に基づくものである。」(八木 2004:16)。

一般的に、意味には「識別標識」と「意味標識」の 2 種類がある。前者は、ひとつひとつの語がもつ意味で、dog であれば、dog 独自の一般化できない部分である。後者は、例えば、「数えられる名詞であること」、「生き物であること」、「人ではないこと」などの dog が他の複数の語と共通して持っている部分である。（八木 2004:16）本研究の「意味」とは、後者の「意味標識」を指す。

本研究は、統語形式に加えて、PU の特徴的な共起語、音声的特徴を分析し、「意味は統語形式とともに音声形式にも関係がある」ということを提示する。

本研究ではアメリカ CNN のインタビュー番組、“Larry King Live,” “Larry King Weekend”を収集したコーパス、“Larry King Live” Corpus(hence “LKL” Corpus)を研究材料に let's say の多義をみる。以下では、まず、Phraseology とは何かを見て、そして本研究の Phraseology の定義を説明する。また、音調とその意味を説明し、その後、let's say の多義をみる。

2. Phraseology とは

生成文法では、「人間は単語を結びつけてより大きな単位である句(phrase)を作り、さらに句と句を結びつけて文(sentence)を作り出す能力を持っている。そしてそのように作り出される文の数は無限である。つまり、無限に新しい文を作り出す能力（文の生成力）を持っている。」（中村他 (1989:5)）と言われている。

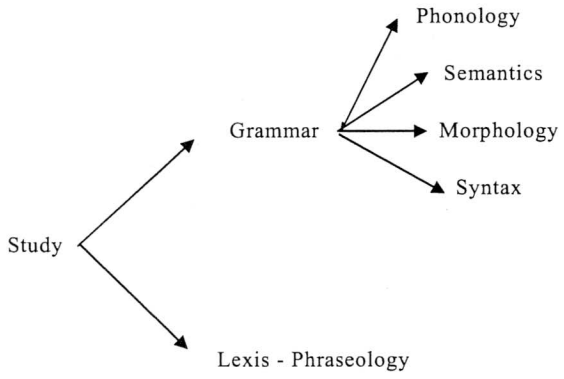
しかし、Sinclair (1991)は、異なる考え方を提示している。人間というものは文を無限に生成する能力をもって発話、作文をするのではなく、予め固定化された塊を使用している、というのがその考え方である。

人間が文を組み立てるには文法規則に従い、可能な単語を言語使用者の選択に基づき文を作るという側面がある。これを grammar という。Sinclair (1991)は、 このような文

法観を'slot-and-filler' model と呼ぶ。一方、文法規則だけでは説明がつかないほど実際の語の結合は限られている。言語使用者は、この予め定型化された言葉の塊を状況に応じて適切なものを選択し、利用している。このように、語と語の結合を見ることを lexis という。Sinclair (1991)は、前者の理論を the open-choice principle, 後者を the principle of idiom と呼んでいる。文法規則では説明がつかない語の結合の解明の行き詰まりから Phraseology という学問が成り立ってきたと考えられる。

Halliday (1961)は、grammar は、これまでの文法規則に従い、文を生成する際には何が結合可能か否か明確であり、その構造を見ること、とある。lexis は、文法規則とは関係なく、語と語の結合を見る研究分野である。両者はそれぞれ 'closed,' 'open'と呼ばれており、'closed'における語の選択範囲は system, 'open'は set と呼ばれている。lexis に属する語彙項目を lexical item といい、その語彙項目の結合は lexical set という。Phraseology の位置づけを Halliday (1961)をもとに(1)に示す。

(1)　Phraseology の位置づけ



以上が、Phraseology の言語学における成り立ち、位置づけである。次に Phraseology の定義を見ていく。

3.　本研究の Phraseology の定義

Hatmann and James (1999)は、Phraseology は、phrases, idioms, multi-word expressions と定義している。本研究では、Hatmann and James (1999)の定義を参考にしながらも、collocations なども含んだ独自の定義を設ける。

口語英語の Phraseology の定義は、構成語数にかかわらず、繰り返し使用されることで多義をもつ表現、とする。その下位分類として、lexical phrases, collocations, idioms, discourse particles を含む。その他に西澤・井上(2003)の共同研究である Have you ever, Did you ever, Do you ever と動詞の共起から「ever と時制」というように、ある表現と文法範疇との関わりも Phraseology の領域に含む。術語は set phrase, fixed expressions などあるが、phraseological units (PU)を使用する。

本研究の議論の中心は、PU としての let's say の多義を報告することであり、*let's say goodbye, let's say hello.*のような動詞の項をとる表現は研究対象としない。

4. 音調とその意味

O'Connar and Arnold (1961)は、英語の抑揚の基本構造を(1) Pre Head[i], (2) Head[ii], (3) Nucleus[iii], (4) Tail[iv]の 4 種類に分類している。さらに、O'Connar and Arnold (1961)は、核音調の抑揚を 7 パターン[v]に分類し、それぞれの抑揚の意味を平叙文、wh-疑問文、Yes-No 疑問文、命令文、感嘆文に分けて、詳細に分析している。

しかし、今井(1989)は、英語の抑揚における意味の分析は、すべて上昇調と下降調の 2 種類で可能という。基本的には下降調は「断定」を、そして上昇調は「判断保留」を意味する。下降上昇調は、下降調の意味が主であり、上昇調の意味は副である。つまり、下降上昇調は「断定」の意味が強く、後に、判断保留の意味が加わる。このため、「皮肉」の表現に使われる。同様に、上昇下降調は、判断保留の意味が断定よりも強い。(大高 1998:199)　平板調は、「わかりきった、当然のこと」を意味する。(今井 1989:189)

本研究は、今井(1989)の分類、下降調は「断定」、上昇調は「判断保留」、下降上昇調は「断定の意味が強い」、上昇下降調は「判断保留の意味が強い」、平板調は「当然のこと」を参考にする。let's say の場合は、音調とその意味において、このような対応関係が見られるかどうか調べる。

5. let's say の実態

5.1 let's say の統語構造

Huddleston and Pullum (2002)は、命令文は、*ordinary imperative* と *let-imperative* に分けている。*let-imperative* は、一般的な let の意味である allow とは異なる使われ方をしている let である。

(2)　a. *Open the window.*　　b. *Let's open the window.*
　　a. *Please let us borrow your car.*　　b. *Let's borrow Kim's car.*

一般的な使われ方は(a)であり、(b), (b)は意味の漂白化[vi]をおこし、命令構造の特別なタイプに値する。このような命令文を *1st person inclusive let-imperative* といい、we の目的格は通常 's に省略される。これは通常、話者とともに受け手も含まれている us である。対照的に、(a)の us は *exclusive* で、1 人もしくはそれ以上の人と私を指す。You は排除されている。この let の命令文は *open let-imperative* という。

Quirk *et al.* (1985) は、*inclusive, exclusive* から let を使った表現を説明している。

(3) a. We complimented ourselves too soon, John.
　b. The children and I can look after ourselves.
　c. Let's enjoy ourselves, shall *we*?

(3a)の we は、*inclusive we* で、聞き手も含んでいる。一方、(3b) の we は、*exclusive we* で、聞き手は含まれていない。(3c)の we は、*inclusive we* で、us が Let's に短縮されるときは *inclusive we* の時だけ、とある。

次に、小西(1964)の説明を見ていく。もともと let は、許可の意味、allow の Let us とあらたまった形からくだけた表現形式として let's という省略形を用いられるようになった、とある。また、let's が 1 つのまとまりであると考えるため、一種の助動詞と考える人も多い。ところが、そうすれば、本来に's あったはずの意味合い（一種の仲間意識）が薄れてくることになる。理由は、この's には強勢が置かれることはないからである。そこで、仲間意識を打ち出す必要から、口語では(4)のような Let's us go.という Let's go と Let us go.の混交形ができる。この(4)の表現は(5)に示した Let's you and me (or I) wash the dishes.という表現と同じである。これより let's が定型化してきたと言える。

(4) Let's *us* go.

(5) Let's *you and me* (or *I*) wash the dishes.

これより let's say の統語構造は、let us say から let's say になったと考えられる。また、let は、意味の漂白化をおこし、*1st person Inclusive let-imperative* と考えられる。

5.2 先行研究

八木(1999)は、イギリスの学習辞典で例をあげるときに「たとえば」と使用され、英和辞典もそのような記述をしている let's say の多義を述べている。八木(1999) は、let's say に( ) 例をあげるとき、( ) 節を従えて喩えを言うとき、( ) 前言の訂正と 3 つの場合を認めている。それぞれの例を以下に記す。

(6) The Redskin also can lapse into moments that endanger the coronary well-being of constituents form here, well, from here to Houston, *let's say*, which might not be 100 percent pro-Oiler, ... （八木 1999: 288-289）
（ワシントン・レッドスキンがまたここから、そうだな、たとえば 100 パーセントオイラーファンではない、ヒューストンまでのファンの冠状動脈を危険にさらすような瞬間があり得る）

(7) Now *let's say* you have a bass fishing fanatic in the house. （八木 1999: 289）
（さて、家にバス釣りに夢中の人が家にいるとしましょう）

(8) But as long as he's working with RFB, there's always that possibility, always that fantasy: Murrow and Mitty. No, *let's say* Murrow alone. (*ibid.*)
（しかし彼が RFB で働いている限り常にその可能性、常にあのマローとミッティの空想がある。いや、マローだけと言うべきか）

5.3 let's say の多義性

let's say の多義性を、特徴的な共起関係、文中での位置、特徴的な音調の関係からとらえることにする。この基準により分類した let's say の多義を以下に示す。分類の用語は八木(1999)のものを使用する。

5.3.1 例をあげる let's say

(9)は、視聴者が、ゲストの霊能師 John Edward に霊は服を着ているのか尋ねている場面。them は dead people を指す。John Edward は、霊がどのように見えるかを let's say 以下、いとこ Eddie と例をあげている（下線は筆者。以下同じ）。

(9) KING: OK. John, do you see them in clothes?

EDWARD:.... For example, if I need to talk about someone who would look a certain way, they might show me, <u>let's say</u> my cousin Eddie, and I'll describe my cousin Eddie and it's really describing this person's son, and it's about validating and qualifying the energy. And like Rosemary said, you need to be skeptical, and -- so you can discern the difference what you're thinking and what you're actually receiving. [Aug., 19. 1999]

この let's say は平板調をとる。今井(1989)のいう「平板調は当然のことを意味する」という分類には当てはまらない。以下にあげる例は、数詞の前に現れる let's say である。

(10) KING: How do they rip you off? What do they do? Creative accounting works how?

CARTER: Well, the show costs X amount of dollars to produce. And the network gives them, <u>let's say</u>, $1 million an episode to produce. Then they take a third of that and they use that for operating expenses for the lot. But then they amortize it, start amortizing the cost, their costs on other shows and mix the whole pot together. [Mar., 5. 2002]

(10)の数詞の前に現れる let's say は、今回、音声資料が入手できなかったので、研究対象とはしていない。例をあげる let's say は、文中で名詞（句）の前に用いられる。音声的には平板調をとる。また、例をあげる let's say は、今井(1989)が示す音調とその意味の分類には当てはまらない。

以下の例は、King が、歌手の Mariah Carey に過去に交際した男性について尋ねている場面。Mariah Carey が、「交際している男性と例えば、アルゼンチン、メキシコ、もしくは南米アメリカのどこか旅行に行けば・・・」という場所の選択肢を let's say で示している。この let's say は上昇調である。上昇調が使用される場面は、選択疑問文のように or を伴う。また、今井(1989)が示すように、上昇調の意味である「判断保留」を示す。

(11) KING: On him.

CAREY: ....So I wish nothing but the best for him. He's very talented. But it's like, yet

again, two famous people. If we were to go to, let's say, Argentina or Mexico or anywhere in Latin America, he would get mobbed more than me. Or, you know, it would be equal. And it was fine, you know?

KING: Speaking of mobbed, how about Eminem? [Dec., 19. 2002]

5.3.2 節を従えて喩えを言う let's say

節を従えて喩えを言う let's say は、多様な使われ方がある。文頭に来る場合は、八木(1999) が指摘している通り、that 節を従えるが、that 節は省略される傾向にある。

(12)では、King が、アメリカ、ワシントン近郊でおこった無差別射撃殺人について、イギリス人ゲスト、Dominick Dunne の意見を伺っている。この let's say は、その無差別射撃殺人犯達が、"LKL"を見ているかという喩えを言っている。

(12) KING: And getting what out of it, Dominick?

DUNNE: I mean I think he's really -- He's enjoying his fame.

KING: Robert Ressler, do you agree with that?

RESSLER: I do agree with that. A person that has had kind of a disastrous life and, as Jack would indicate, has been a failure through most of his life, this is something that means something to him.

KING: Yes, but when you therefore say something like that, don't you spur him on? Let's say he's watching or two of them are watching. [Oct., 16. 2002]

文頭に現れる let's say の音声特徴は、下降調である。下降調は、「断定」を意味しているのではない。共起語は、so, now, well, OK, for example などがある。

次に文中に現れる let's say を見ていく。ここでも無差別射撃殺人犯がテレビを見ているかという喩えを言っている。

(13) KING: This is not a successful individual?

WALSH: .... I'm beating you at the game, and you know what, I'm paralyzing the nation's capital of the most powerful country in the world, and I am the top news story. So he is feeding his ego. There's no remorse, there is no regret, there's no conscience, there is no guilt. He is shooting 13-year-old child...

KING: There's no motive? There is just...

WALSH: Power. Power. Ego. Narcissism.

KING: All right. Does he, though -- let's say he's watching -- take offense when you call him what you call him, and does this make him angrier? [Oct., 22. 2002]

(13)の例の音声特徴は、平板調である。平板調の let's say は、その前後に間(pause)がある。文中に現れる let's say の多くは、下降調である。下降調、平板調とも、今井(1989)が示す意味とは対応関係は見られない。以下に示す例も文中に現れる例だが、共起語に

特徴が見られる。(14)は、King が、上院議員 Joseph Liberman と大統領選挙、Al Gore が出遅れていることについて話している場面である。

(14) KING: Why is he so far behind?

J. LIEBERMAN: Why is Al Gore behind? Well, the latest CNN/"USA" poll shows it a dead heat, so.

KING: One day of Lieberman and it's a dead heat. But assuming he's behind, let's say, the general tenor is that he's behind, most polls say that he's behind. Why haven't you sold it?

J. LIEBERMAN: Well, we'll see. Look, the campaign in many ways is just beginning now. [Aug., 8. 2000]

(14)の let's say の音声的特徴も平板調である。文中に現れる let's say は、文頭に assume, given, if, suppose などの仮定を表す語を伴う。平板調をとる let's say の特徴は、 let's say の前後に間(pause)がある、 let's say の文頭に仮定を表す語がくることである。

文末に現れる let's say も仮定を表す語を伴うことがある。その音声的特徴は上昇下降調である。この場合、主となる意味は上昇調の「判断保留」である。今井(1989)は、上昇調には、「判断保留」と「判断の委譲」の意味がある。判断の委譲とは、情報伝達をきっかけに会話が新たな展開を見せることを期待し、相手の反応を窺う、ということである。(今井 1989:180) 文末の let's say が、上昇下降調になるのは、「判断の委譲」の意味を持つからと考えられる。

5.3.3 前言の訂正

ここでは前言の訂正の let's say を見ていく。(14)のゲストは、夢遊病患者 Scott Falater で、夢遊病中に奥さんを殺害し、刑に服している。Falater が自分の夢遊病体験を物語っている場面。Falater が morning (朝) と言いかけて、midnight (夜中) と let's say で訂正している。

(15) KING: All right, how long had you been hearing about it?

FALATER: ....There are other -- they told on the witness stand during the trial about a few other instances, again, where I would come downstairs while they were awake and just wanting to do nonsense things. Sometimes at 3:00 in the morning or, let's say at midnight, I'd come down all dressed and ready to go to school, had all my books, and they had a hard time convincing me it wasn't time to go to school. My daughter's done that too. ....

[Jul., 8. 1999]

(16)は、視聴者が、ゲストの霊媒師 Rosemary Altea に亡くなった兄弟のことについて尋ねている場面。亡くなった兄弟が、視聴者(you)ではなく、家族の誰か(someone in the

family here)のことを話している。その視聴者(you)を let's say で訂正している。

(16) KING: Where is he?

ALTEA: He's right here on my side as I'm doing...

KING: How are you doing, Gray Eagle. Welcome to the show.

ALTEA: Thank you. I'll say thank you on his behalf. So he is talking to me about your family and tells me, yes, they are all together. But as I'm talking, I'm connecting with this young man who was really quite sick before he passed. He is talking to me about you, or let's say someone in the family here, and unfortunately, what I'm going to say you can apply to anybody, but he's talking about a lot of tears and a lot of problems and upsets and sort of -- ....

KING: I'm sorry -- Bricktown, New Jersey, hello. [Dec., 13. 2002]

前言の訂正は(15), (16)の例から、let's say の前後に morning であれば、midnight などの意味的に類似した語句が現れる。また、or を伴う。音声的特徴は下降調であるが、「断定」という意味では用いられていない。

5.3.4 間詰め(hesitation filler)[vii]の let's say

ここでは、間詰めの let's say を見ていく。間詰めは、これまでの let's say とは異なる使われ方をしている。この日のトピックは、JonBenet Ramsey 殺人事件で、ゲストはデンバーの弁護士である Bill Ritter と弁護士 Alan Dershowitz である。ここでは、FBI profiler, John Douglas の影響について話している。

(17) KING: Bill Ritter, did Douglas make an imprint on you -- impact on you?

RITTER: I'd prefer not to discuss that actually, just based upon some things I know about conversations with him out of the context of -- well, in the context of the grand jury, I guess.

KING: All right. Alan Dershowitz, what does his reputation mean to -- let's say -- just you as a citizen?

DERSHOWITZ: Well, it's -- I think it again raises some doubts, but probably it won't be admissible as evidence. Profiling is not science.....

[Aug., 9. 1999]

間詰めの let's say の音声的特徴は、前後に間隔があり、平板調である。また、文中に現れ、well が伴う。意味は、今井(1989)のいう「当然」ではない。

"LKL" Corpus を使用して let's say の多義を見てきた。それより、日本語の「たとえば」にあたる let's say は、例をあげる、節を従えて喩えをいう、前言の訂正、間詰めと 4 つの意味機能があった。また、それぞれの機能に対応した、典型的な共起関係にある語句、統語・音声形式があった。以上述べてきたことを(18)にまとめた。

しかし、音声形式は、今井(1989)で言われている音調とその意味の分類には当てはまらなかった。これは、let's say の「識別標識」の意味である「たとえば」が、「断定」、「判断保留」、「当然」のどの意味にも当てはまらないからと考えられる。let's say の場合は、今井(1989)とは異なる音調とその意味があった。

(18)

形式 意味	共起関係にある特徴的な語句	文中での位置など	特徴的な音調
例をあげる	like, say, or	文中・名詞（句）の前	平板調
節を従え喩えをいう	so, now, for example	文頭、文中 that は省略される傾向	下降調
前言の訂正	or	文中、前後に意味的に類似語句	下降調
間詰め	well	文中、間隔がある	平板調

では、この 4 つの意味機能がどのように発展したか考えていく。let's say の本来の意味である「例をあげる」、「節を従え喩えをいう」から、「前言の訂正」、そして、Leech and Svartvik (1994)であげる口語英語の特徴である間詰めの let's say へと発展したと考えられる。

5.4　既存の大規模コーパスとの比較

既存の大規模コーパスである WordBanks Online[viii]の話し言葉と BNC の spoken subcorpus[ix]、これら両者と"LKL" Corpus の let's say の意味機能を比較した。

その結果、WordBanks Online と BNC spoken subcorpus には、前言の訂正の let's say, 間詰めの let's say は現れなかった。なぜ、前言の訂正と間詰めの let's say がないのかという理由は、 "LKL" Corpus と WordBanks Online, BNC spoken subcorpus、両コーパスの話し言葉の質の違いによる。両コーパスの話し言葉は、"LKL" Corpus とは異なり、transcribe された informal speech, tutorial など spontaneous な口語英語ではない。 "LKL" Corpus に匹敵する spontaneous の話し言葉は、両コーパスにはない。また、量的に"LKL" Corpus と比較しても少ない。以上のことより、口語英語を研究するには、既存の大規模コーパスではなく、研究に応じた特殊目的コーパスが必要である。

6.　結語

本研究は、「意味的統語論」に基づき let's say の多義を提示した。その結果、let's say には、例をあげるもの、節を従えて喩えを言うもの、前言の訂正、間詰めと 4 つの意味があった。また、それぞれの意味機能は、統語形式とともに、音声的特徴にも関係があることを提示した。

注

[i] 前頭部と呼ばれ、文の始めから文強勢としてのアクセントを最初に受ける語のまでの部分で、弱く早く発音される。 大高(1998:196)

[ii] 最初に文強勢を受ける語から音調核のある音節の前までの部分で、頭部という。(*ibid.*)

[iii] 音調核のある部分で、新情報としての意味を持つ語の強勢音節に最も大きな文強勢が置かれる。音調の面でも最も大きな変化が見られる。(*ibid.*)

[iv] 尾部と呼ばれ、音調核から後の部分で、文強勢が置かれることもある。(*ibid.*)

[v] 低下降調、高下降調、低上昇調、高上昇調、下降上昇調、上昇下降調、中平板調の7パターン

[vi] 本来のもっていた意味が薄れ、異なる意味に転じること。

[vii] *you know, I see, well* など次に何を言うか考えている際に生ずる間を詰めるときに使用される言葉。Leecn and Svartvik (1994)では fillers と呼ばれ、口語英語の特徴のひとつとしてあげられている。

[viii] WordBanks Online の UKspok (UK transcribed informal speech), 約 900 万語を使用。

[ix] BNC spoken subcorpus は"LKL" Corpus のインタビューとは異なり、tutorial のような一方的な会話文がほとんどである。

引用文献

Altenberg, B. 1998. 'On the Phraseology of Spoken English: The Evidence of Recurrent Word-Combinations' In A. P. Cowie (ed.) *Phraseology: Theory, Analysis, and Applications.* Oxford: Oxford University Press, 101-122.

Halliday, M. A. K. 1961. 'Categories of the Theory of Grammar'. In J. Webster. (ed.), *On Grammar.* London: Continuum, 37-94.

Hartmann, R.R. K. and G. James. 1998. *Dictionary of Lexicography.* London: Rutledge.

Huddleston, R. and Pullum, G. K. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language.* U.K.: Cambridge University Press.

今井邦彦. 1989. 『新しい発想による英語発音指導』 東京：大修館書店.

小西友七. 1964. 『現代英語の文法と背景』 東京：研究社出版.

Leech, G. and J. Svartvik. 1994. *A Communicative Grammar of English,* 2nd edition. Longman: Pearson Education.

中村捷・金子義明・菊地朗. 1989. 『生成文法の基礎－原理とパラミータのアプローチ』 東京：研究社出版.

西澤緑・井上亜依. 2003. 「Have/ Did/ Do you ever ~ 構文の分析－ "Larry King Live" Corpus を対象にして」 英語コーパス学会 第 22 回大会 2003 年 10 月 25 日 明海大学.

O'Connar, J.D. and Arnold, G.F. 1961. *Intonation of Colloquial English.* London: Longman.

大高博美. 1998. 『英語音声教育のための基礎理論』東京：成美堂.

Quirk, R. S., S. Greembaum, G. Leech & J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language.* Longman.

Sinclair, J. 1991. *Corpus, Concordance, Collocation.* Oxford: Clarendon Press.

八木克正. 1999. 『英語の文法と語法－意味からのアプローチ』 東京：研究社出版.

八木克正. 2004. 「意味的統語論から見た want の補文構造」後藤弘（編）『英語研究の諸

相－言語・教育・文学』札幌：共同文化社, 15-36./ 加藤冨男・水野政勝・八木克正（編）『英語に結ばれて－後藤弘教授退職記念論集』 札幌：共同文化社, 15-36.